

『発達障害の治療の試み』修正箇所（2014.7.15.）

ページ	本文	訂正
p.87-1	・分子量 <u>500</u> 以下の低分子	・分子量 <u>800</u> 前後の低分子
p.93	未消化状態のペプチドは、 <u>分子構造がアヘンや麻薬に似ており、</u>	未消化状態のペプチドは、 <u>脳内の麻薬受容体（オピオイド受容体）と反応することで、</u>
p.121 ①	それらのペプチドは共に <u>分子量が 500 以下と小さく、ヘロインやモルヒネと分子構造が似ており、</u> 腸管から血中へと移行し、血液脳関門を通過し脳内に到達すると、 <u>脳の鎮静受容体と反応し似た働きをするので、</u> 脳に影響を与え、GABA の働きを抑制し、ドーパミンの分泌を促すことがわかっています。	それらのペプチドは共に <u>分子量が 800 前後と小さく、</u> 腸管から血中へと移行し、血液脳関門を通過し脳内に到達すると、 <u>脳内でオピオイド受容体という麻薬受容体と結合し得るものであるため、</u> 脳にヘロインやモルヒネをとった時と同様の影響を与え、GABA の働きを抑制し、ドーパミンの分泌を促すことがわかっています。
p.141. ③	共に分子量が約 <u>500</u> 以下と小さく、	共に分子量が約 <u>800</u> 前後と小さく、
p.193 ②	グルコースやアミノ酸などは能動輸送（ATPの分解の力で濃度に逆らって輸送する）されるのです。	<u>グルコースは促進拡散（エネルギーは必要とせず、濃度勾配に従って担体を介して取り込まれる）、</u> <u>ビタミンやアミノ酸、鉄などは能動的輸送（ATPの分解の力で濃度に逆らって輸送する）されるのです。</u>
p.193 ③	<u>胎盤のすい臓機能によって、免疫機能を果たし、病原菌などの異物が入らないようにしていますし、</u>	<u>（「胎盤のすい臓機能」を削除）また、胎盤は免疫機能を果たし、病原菌などの異物が入らないようにしていますし、</u>
p.195 ⑤	グルコース、アミノ酸、ビタミンなどは能動輸送によって胎盤を通過する。	<u>（削除）</u>
p.195	胎児の肝臓やすい臓で処理された薬物や毒物は胎盤を通して母体に戻されますが、胎児の器官は十分に機能していないために解毒機能は低く、	胎児は薬物や毒物の代謝を肝臓や胎盤で行っていますが、胎児の器官は十分に機能していないために解毒機能は低く、
p.206	これを防ぐためには、鉄を多く含み、さらに腸からの吸収も良いレバー、牛肉、鶏肉、赤身の魚といった食品を積極的に食べる事が大切です。	これを防ぐためには、 <u>一歳頃から</u> （追加）、